

南富良野町橋梁長寿命化修繕計画

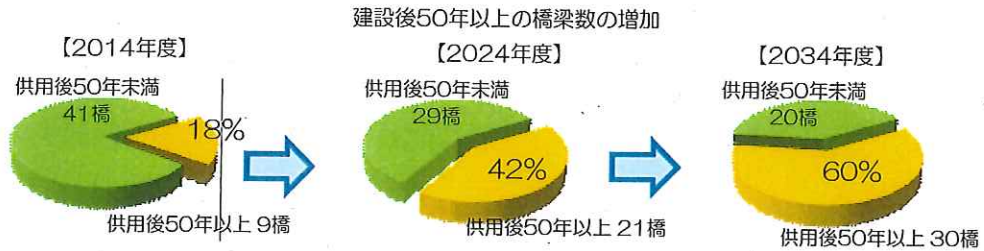
平成24年度

南富良野町

1. 長寿命化修繕計画の背景・目的

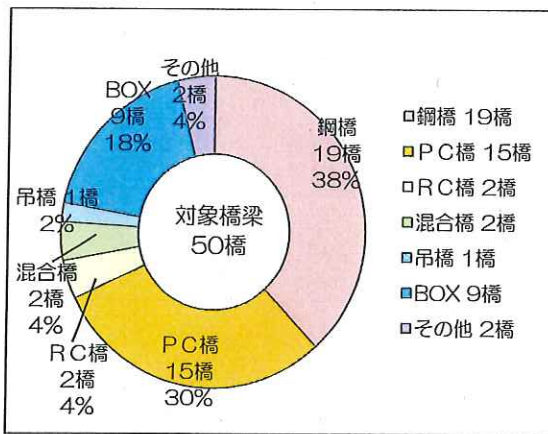
1) 背景

- ・南富良野町が管理している道路橋は現在 50 橋あり、そのうち 2014 年で建設後 50 年経過する橋梁は 9 橋で全体の 18% を占める。20 年後の 2034 年には、この割合が 60% (30 橋) となり、高齢化橋梁が急激に増加します。
- ・今後、増大が予想される橋梁の修繕や架替えに必要な経費に対して、出来る限りのコスト縮減への取り組みが不可欠であります。



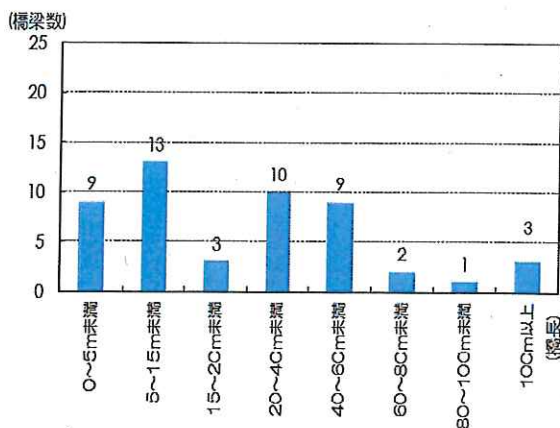
2) 目的

- ・道路交通の安全性を確保する上で、事後対処的な維持管理から、計画的かつ予防的な維持管理目的へと方向を転換し、橋梁の長寿命化によるコスト縮減を図ります。

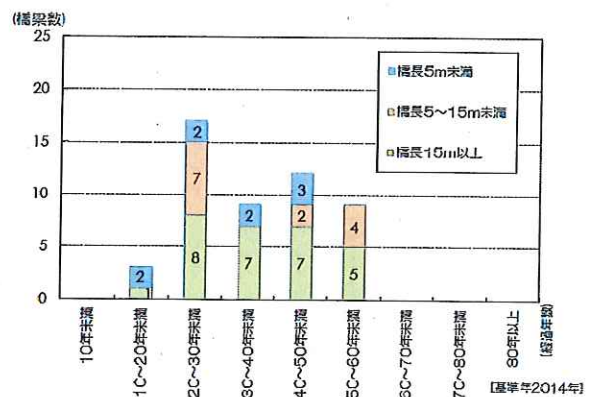


新生橋
昭和 47 年供用開始 (42 歳)

【橋長区分別橋梁数】



【建設後経過年数別橋長区分】



2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	1 級町道	2 級町道	その他町道	合計
全管理橋梁数	19	12	19	50
うち計画の対象橋梁	19	12	19	50
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち H24 年度計画策定橋梁	19	12	19	50

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本方針

1) 健全度の把握

- ・既設橋梁の健全度の把握と保全を図るため、橋梁の架設年度や立地条件等を考慮して、『道路橋に関する基礎データ収集要領（案）』に基づいて5年毎に定期点検を実施します。

2) 維持管理に関する基本方針

- ・既設橋梁の維持管理は、日常点検・定期点検・異常時点検を実施し、橋梁の健全度の維持・改善に努めます。

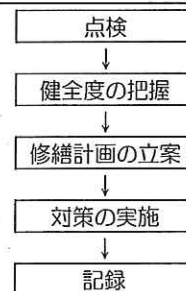
日常点検：既設橋梁を良好な状態に保つための日常の維持管理として道路の巡回に併せて実施します。

定期点検：主要部位の損傷の状態や、今後に補修や補強が必要となる既設橋梁の状態を定期的に調査するため、おおよそ5年に1回の頻度で実施します。

異常時点検：地震、集中豪雨などの災害が発生した場合や大きな損傷が見つかった橋梁において、橋梁の安全性を確認するため、緊急に実施します。

- ・排水柵の清掃などを定期的に行い、日常的な維持管理においても長寿命化に努めます。
- ・特に跨線橋などの重要度の高い橋梁は変状の進行状況を確認し著しい異常などが認められた場合はすみやかに対策を実施します。

- 専門家による橋梁点検を実施し、橋の健全度を把握します。橋梁点検は、おおよそ5年ごとに行う予定です。
- それぞれの橋において、点検により把握した健全度に基づき、最適な修繕計画（低コストかつ長寿命化を図れる計画）を立案します。
- 対象橋梁において、長寿命化修繕計画を策定し、計画に基づいて順次、修繕を実施します。
- 点検および修繕した結果は、橋梁台帳および点検調書に記入し電子データとして保存します。



橋の維持管理の流れ

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

- ・健全度の把握および日常的な維持管理に関する基本的な方針をもとに、計画的かつ予防的な維持管理などの実施を徹底することにより、修繕や架替えに必要となる事業費の巨大化や非効率化を回避し、ライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図ります。
- ・南富良野町の、将来的な「まちづくり」や、社会状況にあわせて効率的で効果的な修繕計画となるように見直しを検討します。
- ・修繕後の橋梁において、長寿命化による修繕の効果を点検時に確認して、今後の修繕計画に役立てます。

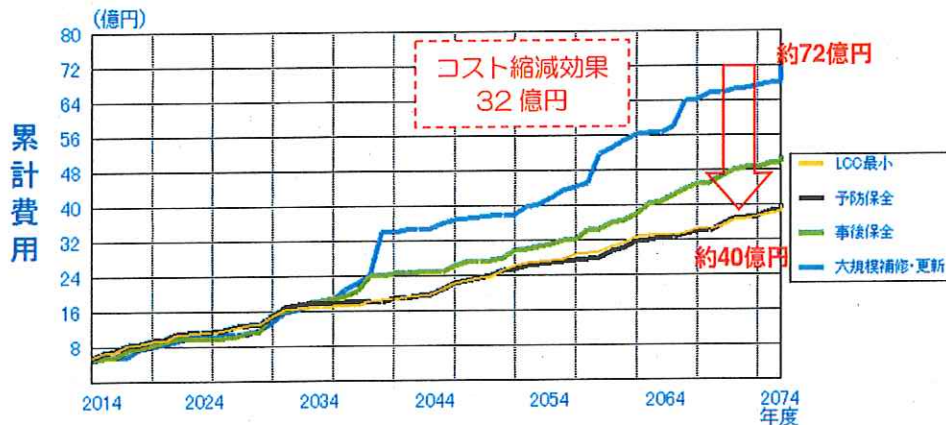
5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

- ・様式 1-2 による。

6. 長寿命化修繕計画による効果

- ・今後 60 年の修繕・架替事業費を試算した結果、従来型の事後的な大規模補修・更新の場合は事業費約 72 億円となるが、本計画を実施することで、予防かつ計画的な修繕計画が可能となり、事業費約 40 億円程度となる。よって、約▲32 億円のコスト縮減効果が期待できます。

保全・更新費用の推移



7. 計画策定担当部署及び意見聴取した学識経験者等の専門的な知識を有する者

- 1) 計画策定担当部署
南富良野町役場 建設課 TEL0167-52-2179
- 2) 意見を聴取した学識経験者
北海学園大学 工学部 教授 杉本 博之